

第22回夏季デフリンピック競技大会ソフィア2013

2013年7月26日～8月4日

7月26日に第22回夏季デフリンピックがブルガリアのソフィアで行われました。

「パラリンピック」に対し「デフリンピック」はろう者のオリンピックです。

これまでのデフリンピックでは、聖火リレーが行われたことがないのですが今年初めて計画されました。

応援ありがとうございました。詳しい内容は <http://jfd.or.jp/scsofia2013/>

または、<http://www.jfd.or.jp/deaflympics/games/about.ptp> をご覧ください。

スポーツ祭東京2013 第13回全国障害者スポーツ大会

会期：平成25年10月12日(土)～10月14日(月)

「東京に 多摩に 島々に 羽ばたけアスリート」

大阪府、大阪市、堺市のスポーツ大会は第13回全国障害者スポーツ大会の選考会も兼ねていました。

全国大会に選考され選手として出場される皆様、練習に励み大会に向けて頑張ってください。

応援しています。

大阪障害者スポーツ指導者協議会

ポロシャツを作りました
1枚 1500円



大阪障害者スポーツ指導者協議会でポロシャツを作りました。

大会ボランティアに参加された時などに着てください。

強制ではありません。

月1回の理事会で販売いたします。(現金引き換え)

購入希望の方

8月19日(月)・9月9日(月)・10月21日(月)

夜7時～9時

大阪市長居障がい者スポーツセンター 研修室 2

サイズ：S M L XL EL

担当者：中野 090-2708-8333



(広報部)

日時：7月26日(土)～8月4日(日)

購入される方は、上記の日

程時にご来場ください。

理事会の様子も伺えます。

交換となります。

金と品物なので、現金引き

販売に関しては、大切なお

会と刺繍してあります。

障害者スポーツ指導者協議

着やすいです。左胸に大阪

者協議会で作ったポロシャ

ツは速乾性があり、軽くて

★大阪障害者スポーツ指導

者協議会で作ったポロシャ

ツは速乾性があり、軽くて

着やすいです。左胸に大阪

者協議会で作ったポロシャ

ツは速乾性があり、軽くて

着やすいです。左胸に大阪

者協議会で作ったポロシャ

ツは速乾性があり、軽くて

着やすいです。左胸に大阪

者協議会で作ったポロシャ

ツは速乾性があり、軽くて

着やすいです。左胸に大阪

者協議会で作ったポロシャ

ツは速乾性があり、軽くて

着やすいです。左胸に大阪

者協議会で作ったポロシャ

ツは速乾性があり、軽くて

着やすいです。左胸に大阪

者協議会で作ったポロシャ

ツは速乾性があり、軽くて

着やすいです。左胸に大阪

者協議会で作ったポロシャ

ツは速乾性があり、軽くて

着やすいです。左胸に大阪

者協議会で作ったポロシャ

ツは速乾性があり、軽くて

着やすいです。左胸に大阪

者協議会で作ったポロシャ

ツは速乾性があり、軽くて

着やすいです。左胸に大阪

者協議会で作ったポロシャ

ツは速乾性があり、軽くて

着やすいです。左胸に大阪

者協議会で作ったポロシャ

ツは速乾性があり、軽くて

着やすいです。左胸に大阪

者協議会で作ったポロシャ

ツは速乾性があり、軽くて

着やすいです。左胸に大阪

協議会だより

平成25年 8月 1日 第70号

発行・編集 大阪障害者スポーツ指導者協議会 広報部

大阪市東住吉区長居公園1-32 大阪市長居障害者スポーツセンター内

FAX 06-6697-8613

<http://osaka-adspo.org/>

【報告】 大阪障害者スポーツ指導者 平成24年 年次総会

平成25年4月14日(日)・大阪市長居障がい者スポーツセンター 2階 会議室

◎平成24年度 事業報告について

1 事務局

- ① 協議会の運営体制やボランティア協力体制の調整を行うための理事会を14回開催した。
- ② 大阪府内の障がい者スポーツ大会・イベントに協力を行った。
- ③ 第12回全国障害者スポーツ大会への参加(ぎふ清流大会)
- ④ 第9回大阪市スポーツミーティングへの出席
- ⑤ 全国障害者スポーツ指導者協議会への出席(全国会議)

2 研修部

- ① 障害者スポーツでのボランティア活動や指導技術についての研修を開催(企画部共催)

3 広報部

- ① 第68号 平成24年9月20日発行・第69号 平成24年12月25日発行

4 企画部

- ① 『スポーツいろいろカーニバル』を開催(研修部共催)
- ② 他団体の講習会に参加(福祉サービス従業者のためのスポーツレクリエーション支援方法研修会・スポーツチャンバラ講習会)

◎平成25年度 事業計画(案)について

1 事務局

- ・各種ボランティアの要請・各種発送業務について迅速に対応・対処することとしたい。また、協議会の会員が意欲的ボランティア活動やスポーツ指導をして頂けるよう努力したい。

2 研修部

- ・障害者スポーツ指導の実践で役立つ内容と、日本障害者スポーツ協会が定める競技種目を中心にした研修を、年1～2階行いたい。

3 広報部

- ・協議会だよりは希望者を対象に発行し、ホームページも平行して情報提供したい。大阪障害者スポーツ指導者の感想(大会ボランティアや研修等々)を載せ、色々な情報を共有できるようにしたい。

4 企画部

- ・大阪障害者スポーツ指導者協議会として、障害者スポーツのイベントや大会が行えるような企画・案を考え実行できるよう努力したい。その一環として平成24年度に行った『スポーツいろいろカーニバル』の継続や、長居障がい者スポーツセンターとタイアップして行えるような行事を検討する。

編集後記

★この暑さの中で、スポーツをするとき水分補給と時間常にかきつけたい。また、屋外か屋内かで変わってきますが、指導者はやはり個々の状態を把握し脱水中には注意を払いましょう。

★大阪障害者スポーツ指導者協議会で作ったポロシャツは速乾性があり、軽くて着やすいです。左胸に大阪障害者スポーツ指導者協議会と刺繍してあります。販売に関しては、大切なお金と品物なので、現金引き換えとなります。理事会の様子も伺えます。購入される方は、上記の日程時にご来場ください。

総会基調講演

発達障がい児・者のための運動サポート

～活かせるからだを目指して～

株式会社チットチャット 代表取締役 森嶋 勉 氏



ひとつ事に集中すればひとつ事ができない。このことをシングルフォーカスと言いますが2つの事ができない。ふつうであれば姿勢を正しながら絵を描くことができるが視覚・触覚・背中をまっすぐさせてくれている筋肉に指令がいかない。見た目ではわかりにくい彼らのからだをよくよく見てみると、からだのありかや自分のサイズをわかっていない子がたくさんいます。なんでそんな高さの所から飛ぶの？そんな所飛び越えられるはずがない所を飛ぼうとするの？身体的な特質は見た目ではわかりにくいです。彼らの体は車椅子に乗っていません。補聴器をしていません。杖をついていません。白杖もついていません。見た目上は五体満足みたいな所があります。僕たちは自分のサイズがわかっているから、だいたいこの位の力で、この位の距離で出来るかどうか分かる。が、彼らは未熟で背中がなくなる感覚、足が消える感覚などは見た目わかりにくい身体的な特質をもっています。彼らを見ていると知的障がい、発達障がい、認知障がい、脳の障がいと言われますが僕は身体障がいではないかと捉えたくになります。身体障がいの人をトレーニングするとき何をしますか、言葉のトレーニングしますか、勉強しますか、そんなことしないでよね。運動療法をしますよね。彼らは発達障がいと言われますが運動療法がいると思います。



感覚器を整えてあげる。

入力情報、出力情報をしっかり整えてあげると彼らの運動療法リハビリテーションスポーツにつながる。この3つがベースの原始的な感覚と言われているそうです。いろいろな運動を体感することで過敏を鈍感にしたり、鈍感を過敏にしたりと刺激されるには運動スポーツしかないと思う。

感覚器

- ・固有受容器
- ・前庭覚器
- ・触覚器
- 視覚器
- 聴覚器

刺激したい感覚器

多様な運動動作を体験する

- からだのありかたを知る
- からだを扱うコツを知る
- 知恵をしぼる癖をつくる
- 「できた感」を実感する

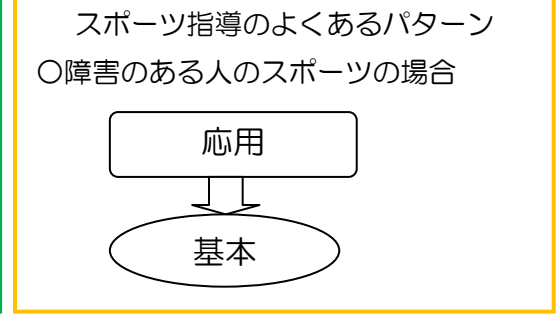
親亀の法則？

孫亀＝認知
子亀＝知覚
親亀＝感覚

僕が勝手に考えた親亀の法則ですが…。人の体はこういう構造になっているらしいです。土台の部分に感覚器、その上に知覚そして認知がある。認知障害ですから社会性に欠けたりコミュニケーションスキルが欠如していたり、言葉の学習ができていなかったりしますから孫亀＝認知のトレーニングが必要だとか人が持っている認知な部分というのは彼らの生活の中にすごくいると思う。僕はこれも個別に教えてあげて欲しい思う。孫亀＝認知は大切だけれど、人の構造から考えたら親亀＝感覚・子亀＝知覚なんです。これは体です。体のベース親亀＝感覚をしっかり作ってあげるとコミュニケーション不全であっても運動を通じてやり取りがわかる。これもコミュニケーションスキルと思う。彼らの持っている特質的なものから人と接する技とか、やり方を引き出してあげたら良いと思う。運動、体を親亀＝感覚としてしっかり形成してあげること、その上に平行して認知のトレーニングもやってもらおうと彼らももう少し生きやすく自分の体に自信をもって体だけじゃなく生きること自信をもって暮らせるのではないかと思います。



スポーツはみんなのもの」のはずなのに
○「能力のある人」、「できる人」だけのものになっているのでは
「型」や「フォーム」、「マニュアル」や「カリキュラム」
「一般的」や「教科書的」にそった指導が多い。
しかし、ここに「落とし穴」が……。



実際の現場で子ども達に接して感じるのは、型にはめたりマニュアル通りにしようしたり、カリキュラムを作ったり教科書的、一般的こういう所から指導法を考えると自閉の子はやっていけません。わかりやすいのは「いやはいや」「わからんはわからん」「やりたくないはやりたくない」「おもしろくないはおもしろくない」など明らかです。指示通りマニュアル通りプログラム通り動いてくれない現象が起ってくる。するとグループ指導なんかは、できる子達だけが集まってやっている。できない子はどんどん隅っこに行ったり、室から逃げていったり。もっと言うと逃げて行くからやらない「やっぱり経験ないからやね」「障がいあるからやね」「認知重いからやね」と、その子・人のせいにしてしまう。やはり指導・サポートを提供しているのだから少し自分事として指導者は考えないといけないと思う。障がいのある人たちのスポーツ指導というのは応用問題ですよ。全ての人は一人ひとり違う。健常であろうが障がいであろうがそれぞれやり方がある。自閉の子でもアスペルガー症候群、広汎性発達障害とか障がい名はつきまますけれど一人ひとり全然違います。その時も違う。1週間前と今と全然違う。さっきの習慣と今と違う。彼らはコミュニケーション不全なんで、あらゆる五感を使って我々をはかってくる。試してきます。その時やっぱり彼らの中に入ってあげられなかったら、好き勝手、やり放題とやればなっしになります。僕も何回もギャフンとさせられています。やっぱりその時「この子にはわかりにくかったな」「この子には難しかったな」「この子にはもう少しゆっくりに良かったのかな」と、しないとスポーツは皆のものにならないです。



出来ない子が出来るようにするには、「おもしろいな」「こういう意味か」「これやったら出来るな」という、おもしろ感、喜び感、できた感を早く教えてあげないと逃げられてしまいます。まず面白いこと、出来ること、楽しいこと、ワクワクすること、というのを形にはめないでマニュアルも作らないでプログラムをちょっとおいてやる。そのような指導をするとどんなことが起こるか。おもしろいからやってくれる。やってくれるのが重なるとトレーニング効果がでてくる。自分のボディイメージが出てくるし、自分の動きもわかってくるし、出来ないことが出来るよう調整するようになる。自分の体のことがわかってきてイメージが出来る。その時、型とかフォーム、マニュアル的な流れに指導する。スポーツをみんなのものにするには、最初は型くずし、型やぶりからはまって段々型にはめてあげたらどうかと僕は現場でやっていてそう思う。

基本とは？

- 型
- フォーム
- マニュアル
- システム
- 一般的、教科書的、などなど

本当にこれらが基本かな…？

サポーターの心得

- 共感的理解である
- 「教える人」から「育てる人」へ
- まだ何か「できる」があるという立場で接する
- 瞬間対応的でアドリブ的なサポート
- 無理はさせない、そしてがんばらす
- 人のしぐみを勉強する

活かせるからだとは？

- 感覚処理能力
- コミュニケーション力
- 自主性、主体性
- 自己肯定感
- おりあい力
- がんばり力
- 体力
- 健康づくり
- スポーツ技術力

生きる力＝自立

スポーツいろいろカーニバル

平成 25 年 3 月 24 日(日)に大阪市長居障がい者スポーツセンターで、「スポーツいろいろカーニバル」を開催いたしました。大阪障害者スポーツ指導者が自ら中心となり障害者スポーツを企画し実施することになりました。

まずは体験をして楽しんでもらうために、障害者スポーツ指導者自身が午前中に研修を受け、午後からはイベントに参加された人たちと「ボッチャ・カローリング・風船バレー・シャッフルボード」を一緒に楽しみました。

この企画を行うにあたり大阪市長居障がい者スポーツセンター指導員(職員)の方々にもご協力をいただき無事終了することができました。

《午前中、研修を受けている様子》



●カローリング

フロアコートで1チーム3人のプレイヤーが6個のジェットローラを交互にぶつけ合い、得点を競う

●ボッチャ

ジャックボール(目標球)と呼ばれる白いボールに赤、青のボール(6球)を投げたり、転がしたり、ほかのボールに当てたりしていかに近づけるかを競う



●シャッフルボード

コートの反対側にある得点圏に向かって、円盤(ディスク)をキューと呼ばれるスティックで押し進め得点を競う。



●風船バレーボール

障がいのある、なしに関わらず一緒にプレイできる6人制のバレーボール。バトミントンコートで鈴の入ったゴム風船を使用し、10回以内で相手コートにボールを返す。



《午後・スポーツいろいろ体験》



カローリング



シャッフルボード



風船バレーボール



ボッチャ

スポーツいろいろカーニバルを終えて

企画部 相原 繁樹

平成24年度の企画部の企画をどのように行うか。メンバー全員で知恵を縛ることになりました。その時、「いつもは、大会のボランティアで障がいのある人と接していることが多いよなあ」「一度、障がいのある人たちと遊ぼうよ!!」「協議会のほうで声かけてみよう!」と声上がり、今回の企画が立ち上がりました。研修部と合同で午前中は研修部が中心にゲームルールを研修で行い、それを午後に活かして障がいのある人たちと遊び体験することになりました。

長居障がい者スポーツセンターの指導員の先生にも協力を得て、会場は長居障がい者スポーツセンター内の体育室を借りて行う運びとなりました。内容についても体育室をどのように区切り、誰でも練習もなくすぐに参加できるニュースポーツで、日頃、あまりしないようなものは何だろうと知恵を出し合い、【ボッチャ・風船バレー・カローリング・シャッフルボード】に落ち着きました。

次にポスター作りになりました。その時に教えてもらった事は、見出しはカラフルで変形文字や影を使ったほうが良いと思っていました。しかし、逆に見にくい!わかりにくい!シンプルな方が良い!ということでした。まだわかっていないなあと気がつきました。

関係団体・機関に声をかけ協賛をいただいたりパンフレットを置いてもらったり、短い時間で案内させてもらいました。当日、どれだけの人たちが集まるか不安の中開催しました。人の流れは順調でいろいろな人たちが各ブースで参加していました。体育室の出入り口で声かけをした成果もあり、喜んでいゝ声がいゝろんな所から上がっていました。シャッフルボードに黙々とはまっている人とか、数字の所にコーンを立てて目標物があるとやり易いとルールを変更してゲームに参加したりしていました。

一日で少し疲れてきたときにある父親が「うちの娘、あんなに笑った事ない。ちがった一面が見れてうれしいわ。次も頼むで〜。」と話しかけてくれました。その言葉で気持ちが爽やかになり、元気をもらいました。本当に参加してくれた人たちに感謝です。「ありがとうございました!」

スポーツいろいろカーニバルを終えて

企画部 菅原 智彦

平成25年3月24日に、述べ150名の参加で、「いろいろカーニバル」と題して行いました。実施種目として、風船バレーボール・ボッチャ・カローリング・シャッフルボードをしました。実施するにあたっては、約1年前から計画し、長居障がい者スポーツセンターの担当者と話し合いをし、計画にこぎつけました。

実施してみて、参加者への周知の徹底が1ヶ月しかなかったので、口コミだけになってしまったこと、看板づくり、横断幕がなかったので、早目にポスターの設置やセンター利用者以外にも、長居障がい者スポーツセンターでのイベントを知ってもらうため、障害者スポーツ指導者への声かけが必要とと思いました。

良かったこととして、楽しい音楽をかけてもらったこと、センターに来ていた利用者に呼び込みだけでも参加してくれたことです。

このようなイベントをきっかけとして体験者が、6月・9月に開催される風船バレーボール大会や4月に開催されるカローリング大会等に参加出来るようになればと思っております。

来年度も実施にむけて取り組んで行く予定です。